

# きよらさ 63



「黒漆葡萄栗鼠箔絵花形遊具箱」  
17-18世紀



## 後期常設展案内

### 平成22年度 後期常設展 「動物の文様」

人間の生活や文化と深く関わりあつてきた動物は、昔から、絵画や工芸のモチーフとしてもさかんに取り上げられてきました。

開催中の後期常設展では「動物の文様」をテーマに、琉球を中心とした漆器の文様として動物たちがどのように表現されてきたのかを紹介します。

#### 伝説の動物

動物の中でも特別な力を持つとされる龍・鳳凰・獅子は、琉球はもちろん、琉球に大きな影響を与えた中国でも実際に目にするこのない伝説的な存在でした。

天に昇ることのできる龍や天下太平を知らせる鳳凰は、おもに地位や権力を象徴する文様として用いられてきました。特に、「黒漆雲龍螺鈿大盆」に見られる5つの爪を持つ龍は最も権威があり、中国皇帝の象徴とされてきました。この作品と同じような図柄の盆は、琉球王府の漆器製作組織であつた貝摺奉行所で17〜19世紀にかけて製作され、中国皇帝へ献上されました。



黒漆雲龍螺鈿大盆

一方、獅子の文様は、遠く西の方に住むライオンの

姿がシルクロードを経て中国に伝わり、生み出されたため、実物と異なる形になつたと考えられています。その勇ましい容姿から、威厳の象徴や魔除けの文様として琉球や日本の漆器にも用いられました。

#### 鳥を愛てる

当館所蔵の漆器に見られる動物の文様で一番多いのが鳥です。空を自由に飛びまわる鳥は人々の憧れであり、その美しい姿や仲間と戯れる様子は、いつの時代も愛されてきました。特に、中国でさかんに描かれた花鳥図は漆器の文様としても好まれ、琉球を含めた東洋の広い地域に広まりました。また、人物の背景に鳥を表した穏やかな情景、水辺に鳥が集う様子など、琉球漆器に表された様々な場面に鳥の姿は見られます。

#### にぎわう動物文様

琉球漆器に見られる動物文様の多くは、説話に由来するものやおめでたい意味を持つ吉祥文として中国から伝わりました。そのため、琉球で馴染みのある動物やそうでない動物も文様として受け入れられてきたのです。

例えば、虎は琉球や日本にはいませんが、中国や朝鮮半島などから伝わつた水墨画などを参考に、絵画に描かれたり工芸文様として用いられてきました。その猛々しい姿には、邪気を恐れさせる力があると信じられています。また、夜に飛び回る蝙蝠には不吉なイメージもありますが、中国語では蝙蝠の「蝠」の発音が「福」と通じること

から幸福のシンボルとされました。琉球で作られた「朱漆蝙蝠瑞雲箔絵東道盆」にもその姿が見られます。



朱漆蝙蝠瑞雲箔絵東道盆

縁起の良い意味のある動物文様を漆器に用いることで、邪悪なものを取り除き、幸運を呼び寄せたいという願いを込めていたようです。

#### 現代の動物文様

一八七九年の琉球処分(廃藩置県)によって、漆器製作の中心は、王府の貝摺奉行所から民間工房へと移りました。明治から昭和初期にかけては、王国時代の形や文様を受け継ぐものに加え、芭蕉に鶏など沖縄の動物や植物を取り上げた漆器、日本風のデザインやモダンデザインの漆器が製作されました。戦後はアメリカ人の好みを取り入れた土産品や記念品としての漆器が、また近年では個性的な表現で動物文様を施した漆器などが見られます。

作品に見られる動物文様からは、いつの世も変わらない人々の動物に対するまなざしや幸せになりたいという願い、さらには沖縄が歩んできた歴史の流れを垣間見ることができます。

(森根)

自主企画展案内



「美へ挑む うるしの輝き

— 近現代日本の漆芸 — 展

本展覧会では、明治〜現代までの日本の漆芸に焦点を当て、約90件の展示作品をおおして日本の漆芸の美と技、その多様性を紹介します。

今年度の目玉である本展覧会については、前号でも掲載しましたが、ここでは、関連イベント情報について詳しくご案内します。この機会にぜひご参加ください。

会期 平成23年1月15日(土)

～2月13日(日)

観覧料：一般600円・大学生400円

※20名以上の団体は2割引

高校生以下無料



松田権六「蒔絵櫃に四十雀模様二段卓」  
東京国立近代美術館所蔵

関連イベント  
○呈茶席

日 時 ■平成23年1月15日(土)

午前10時～12時(先着70名)

場 所 ■エントランスホール

協 力 ■浦添市文化協会 茶道部会

裏千家 与那嶺宗房 社中

内 容 ■無料

来館された皆様をお茶でもてなします。

○講演会「近現代日本の漆芸について」

日 時 ■1月22日(土)、午後2時より

場 所 ■美術館講堂

講 師 ■諸山正則(東京国立近代美術館工芸課主任研究員)

対 象 ■一般

内 容 ■無料

明治〜現代までの日本の漆芸に関して、講話いただきます。

○特別作品解説会1

日 時 ■1月30日(日)

午後2時～3時

場 所 ■展示室内

講 師 ■室瀬和美(漆芸家、重要無形文化財「蒔絵」保持者)

対 象 ■一般

内 容 ■要観覧料(半券の提示で入場可)  
■展示作品について解説

○特別作品解説会2

日 時 ■2月13日(日)

午後2時～3時



柴田是真「烏鷺蒔絵菓子器」  
東京国立博物館所蔵

場 所 ■展示室内

講 師 ■糸数政次(沖縄県工芸技術支援センター主任研究員)

対 象 ■一般

内 容 ■要観覧料(半券の提示で入場可)  
■展示作品について解説

○体験教室

日 時 ■2月5日(土)

午後2時～4時より

講 師 ■照喜名朝夫(蒔絵師)

対 象 ■一般(定員15名)

募 集 期 間 ■1月11日(火)～23日(日)

応 募 ■電話にて受付。

料 金 ■1500円程度  
応募多数の場合抽選。

○学芸員による作品解説会

日 時 ■1月16日(日)、1月23日(日)、  
1月29日(土)、2月6日(日)、  
2月11日(金)、  
いずれも午後2時～3時

料 金 ■要観覧料

## 企画展・事業の案内と報告

### ■第11回浦添市

#### 小中学校美術作品展

本展は、市内小中学校、特別支援学校の各学校単位で選抜した児童生徒の優秀な作品、約280点を一堂に展示する展覧会です。

今年も多くの素晴らしい作品が各学校から選出され、去る11月中旬に行われた審査会では、市長賞をはじめとする各賞の決定に、審査委員の方々も頭を悩ませていました。

展示会の開催を重ねることに、創造性に溢れ、より表現豊かな作品が出品されています。

市内小中学生の作品の他、前年に引き続き、基地内キンザー小学校と市内幼稚園児の作品の招待展示も同時開催します。どうぞお楽しみに！

会 期 12月15日(水)～26日(日)  
観覧料 無料

### ■ドゥシヤン・カーライ展(仮称)

世界的に有名な絵本の祭典、「ブラチスラヴァ世界絵本原画展」が開催されるスロヴァキアの首都、ブラチスラヴァ生まれのドゥシヤン・カーライ(1948～)は東欧を代表する絵本作家として世界各国で絵本を出版し、日本でも多くのファンを魅了しています。大きく見開いた目が特徴的な登場人

物や、繊細な色調で表現されるカーライ作品はどこか哀愁を漂わせながらも、見る人の心を幻想的な世界へといざなう不思議な魅力にあふれています。

本展では代表作「不思議の国のアリス」や「アンデルセン童話集」を含む絵本原画、油彩画、版画、アニメーション原画など200点以上を展示し、カーライの魅力に迫ります。さらに、カーライがブラチスラヴァの美術アカデミーで教えた生徒を中心に、ブラチスラヴァを舞台に活躍する若手作家の挿絵原画もあわせて展示します。

色彩の魔術師カーライのファンタジー溢れる創作の世界をぜひご堪能ください。



マッチ売りの少女  
(『アンデルセン童話集より』)2005年  
c. Dusan Kallay

会 期 平成23年2月25日(金)

～4月10日(日)

観覧料 一般 8000円(6000円)  
小中高 5000円(3000円)

※( )内は前売り・20名以上の団体料金

主 催 琉球新報社

### ■うるしの日 ミニ展示・蒔絵体験教室

11月13日の「うるしの日」にちなんで催しとして、今年はエントランスホールでのミニ展示と、蒔絵体験教室を実施しました。

ミニ展示は「漆器をなおす」と題し、漆器の修復がどのように行われているかを、パネルと作品で紹介しました。以前修復を行った宝石箱の痛んだ引き出しや、布貼り替えの工程見本に加え、眼にする機会のない修復の様子の写真に、来館者は興味深そうに見入っていました。

また体験教室では、銘々皿に施した時絵で金色の文様が出来る上ると、参加者からは歓声が上がっていました。

### いい夫婦の日企画

#### ■画家が書いたラブレター朗読会とミニコンサート

11月19日(金)に、いい夫婦の日企画「まだ君に恋してる」と題し、画家が書いたラブレターの朗読会とミニコンサートのイベントが開催されました。浦添市在住・在勤の40歳以上の夫婦15組を対象に開催され、参加者はラブレターの内容に「あ〜」という感心の声や共感の声を響かせ、また、アコースティックギター心地よい音色に聴き入っていました。会場には、関連イベントとして開催した「絵手紙教室」の受講者作品も展示され、教室テーマの「ありがとう」の思いの詰まった作品が会場を彩っていました。

## 教室の報告と予告

### 体験教室の報告と予告

今年度の秋休み子ども体験教室では、「読書の秋」にちなんだ絵本を使ったワークショップを実施しました。読み聞かせの時間も含め2時間の長い活動時間にも、集中力をきらさずに、終止夢中な様子でした。子どもたちは、色々な色の色んな形のネリノの友だちやカードを完成させ、それらに名前をつけたり人格設定をするなどして楽しく活動をしていました。

#### ○まっくろネリノの友だちを作ろう

(終了報告)

内容 ■ 読み聞かせ・人形作り・オリジナルはがき作り

日時 ■ 10月10日(日)

午後2時～4時

対象 ■ 小学生 10名

講師 ■ 美術館スタッフ



#### ○まっくろネリノの友だちを作ろう

Xmasバージョン(予定)

内容 ■ 読み聞かせ・人形作り・オリジナルはがき作り

日時 ■ 12月19日(日)

午後2時～4時

対象 ■ 小学生 10名

参加費 ■ 500円程度

講師 ■ 美術館スタッフ

申込 ■ 12月7日(火)

～12月16日(木)

※先着順、電話のみの受付となります。

### 実習教室の報告と予告

#### ○紅型教室(終了報告)

内容 ■ 古典柄タペストリーの制作

期間 ■ 8月14日～9月28日(全12回)

講師 ■ 城間 弘子氏(紅型作家)



#### ○陶芸教室(終了報告)

内容 ■ 陶芸の技法を学び、陶器

(湯飲み・角鉢)を制作。

期間 ■ 10月26日～11月23日(全9回)  
講師 ■ 増田 良平氏(陶芸家)



#### ○螺鈿教室(予定)

内容 ■ 螺鈿の技法を学び、漆器を制作。

期間 ■ 1月14日～3月4日(全15回)

対象 ■ 一般(教室未経験者優遇)

定員 ■ 10名

参加費 ■ 1万円程度

講師 ■ 前田 孝允氏(漆芸家・当館館長)

申込 ■ 12月1日(水)

～12月26日(日)

#### 【申込先】

〒901-2103

沖縄県浦添市仲間1-9-12

浦添市美術館 実習教室担当係 宛

(098) 879-3219

17～18世紀頃に琉球で作られた遊具箱。黒漆の表面には、箔絵の技法で蔓を伸ばす葡萄の木とユニークな表情の栗鼠が表されており、文様の一部に色をつけることで画面に動きが出ています。中に収められている5つの小箱には、蓋と同じような文様が一続きの画面として箔絵技法のみで描かれています。

琉球漆器に見られる葡萄栗鼠の文様には、同じような形の栗鼠や葡萄を繰り返し用いて表面全体を埋め尽くすというパターンのもものもありますが、この作品の場合は一つ一つ描き分けられています。また、一本の木から自在に伸びる蔓の描写などは、葡萄の木の特徴をよく捉えています。



中に収められている小箱

蔓を広げてたくさんの実をつける葡萄と、多くの子供を産むとされる栗鼠には子孫繁栄の願いが込められていると考えられており、葡萄栗鼠の文様は琉球漆器にもよく用いられてきました。この文様は中国をはじめ、東洋の広い地域で見ることができます。

紀元前1世紀頃、葡萄は大陸の西(西域)から中国に伝えられて栽培されるようになり、唐代には葡萄唐草の文様が流行しました。12世紀頃になると水墨画にも葡萄が見られるようになり、中でも禅宗の僧侶日観が描いた墨葡萄が注目を集めました。のちに栗鼠も描かれますが、葡萄と栗鼠の組み合わせは明代以降の絵画や工芸品などに見られます。

日本の禅宗寺院にも日観の墨葡萄や日観をまねた葡萄図が伝わっており、1500年頃には葡萄栗鼠図も描かれました。禅宗に関わらず様々な工芸品や絵画に葡萄栗鼠が取り上げられるのは、近世に入ってからのことです。

中国や日本で見られる葡萄や葡萄栗鼠は、もともとは禅宗の画僧によって描かれたものでした。琉球でも、特に16世紀頃は日本の禅宗寺院との交流がさかんでした。はっきりしたことは分かっていませんが、葡萄栗鼠と禅宗文化には何か関係がありそうです。

この作品は、来年の4月10日まで常設展示3室で展示しています。(森根)

美術館スケジュール 2010年12月～2011年4月

■常設展

琉球王朝文化の華－漆芸－

■平成22年度後期

「動物の文様」

・平成22年10月29日(火)～平成23年4月10日(日)

■企画展

■美術館自主企画

- ・12/15(水)～12/26(日) 第11回浦添市小中美術作品展
- ・1/15(土)～2/13(日) 美へ挑む うるしの輝き

■その他

- ・12/11(土)・12/12(日) 第16回沖縄県中学校総合文化祭
- ・1/7(金)～1/10(月) 第25回浦添工業高校デザイン科卒業作品展
- ・2/16(水)～2/20(日) 琉球大学卒業・修了展
- ・2/25(金)～4/10(日) ドゥシャン・カーライ展(仮称)

開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
\*金曜日は午後7時まで(入館は午後6時30分まで)

休館日

毎週月曜日

\*展示替え・年末年始にともなう臨時休館  
H22年12/27(月)～H23年1/4(火)

開館日のお知らせ

当美術館の休館日は毎週月曜日となっておりますが、**月曜日が公休日**の場合は**開館**しています。またその際、代休日は取らずに次週の定期休館日まで連日開館します。どうぞお気軽にご来館ください。

編集・発行

浦添市美術館

Tel: 098-879-3219

Fax: 098-878-1221

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9-2

http://www.city.urasoe.lg.jp/art/

音声ガイドのお知らせ

平成22年度 後期常設展「動物の文様」

当館では、常設展音声ガイドの無料貸出を行っています。展示されている漆器作品のデザインや文様、その装飾技法や作品の用途などをわかりやすく解説し、鑑賞の幅を広げてくれます。

今回の後期常設展「動物の文様」では、伝説の動物の龍・獅子・鳳凰や、実在の動物の鳥・牛・象・魚・蝶など、さまざまな動物の文様が施された漆器作品についてご案内します。

音声ガイドの案内により、展示作品をさらにご堪能、お楽しみください♪



五つの爪を持つ龍は中国皇帝のシンボルとされ、大変格式の高い文様でした。



実習教室発表展のご案内

当館では毎年実習教室発表展を開催しています!

平成23年4月19日(火)～24日(日)に開催する本展では、平成22年度に開講した木彫・沈金・紅型・きゅう漆・陶芸・螺鈿の6教室の受講生作品と講師作品を一堂に紹介。毎年ご好評頂く各種教室では、専門講師指導のもと、受講生は夢中になって制作をしており、エネルギーでユーモアのある展示作品からは、その楽しさや雰囲気がよく伝わります。

本展や当館実習教室に興味のある方は、この機会にぜひお楽しみ下さい♪

